

# 平成23年度 第2回宇都宮都市交通戦略推進懇談会 議事録

日 時：平成24年2月24日（金）13:00～14:30

場 所：宇都宮市役所14A会議室

出席者：委員16名 ほか

## 開会

### 会長挨拶

- ・お忙しいなか、宇都宮都市交通戦略推進懇談会に参加いただき感謝する。
- ・戦略は平成21年度の策定以降、今年で3年目であり、これまでPDCAの考え方により事業を評価してきた。
- ・今回の評価では、いくつかの指標は概ね良好な結果を得られているが、一方では達成するには難しい指標もある。
- ・また、施策事業の区切りの年を迎え、平成24年度以降どのような施策が考えられるのか、また、目標値そのものも見直す必要があるものもある。これらの議事について、皆様から忌憚のないご意見をいただきたい。

### 議事1 宇都宮都市交通戦略における短期施策事業の平成23年度評価について

#### 事務局

資料1「宇都宮都市交通戦略の施策評価表」を基に説明

#### 会長

- ・ただいまの説明に関して、ご意見、ご質問はあるか。

#### 委員

- ・全体的な評価の傾向を見ると、整備が完了したものや上手くいった事業を取り上げてまとめている印象を受ける。まだまだ整備が必要と考えられるものがあり、これらに関する意見や現状を調査し、公共交通の整備の課題はどこにあるのかを住民の目線からみた評価が少ないと思う。
- ・青色に塗った自転車専用通行帯を例にあげると、歩道に乗り上げる際の段差解消が図られていない。また、通行帯が交差点付近でなくなり、走りづらいとの意見が多数聞かれる。しかし、市民満足度は80%近くという評価となっており、目線の違いを感じる。市内を歩いていて、細い道に入ると不備が目立つ。歩道としての役目を果たしているのか疑問を感じる。そのようなところへの目の向け方や考え方が足りないのではないか。
- ・中心部の活性化においても、交通量にどう関連しているのか考察がなされていないのではな

いか。中心市街地の魅力不足により人通りの減少をもたらしているのではないか。これらの率直な住民の視線を忘れて欲しくない。

#### 事務局

- ・バリアフリーについては、参考資料 2 4 ページにおいて、色が付いた自転車レーンでの段差の解消を行っている。このように整備が必要な箇所は市内各所に点在しているのも事実であり、少しずつではあるが進めているところである。
- ・中心市街地の活性化もひとつのテーマである。多くの方に来ていただき、回遊性を高めていくために、市としても魅力の向上やイベントの開催等様々な手法により活性化に努めている。多岐にわたる分析を踏まえて全体として考えていきたいと考えており、一つの要素として交通の充実が繋がっているのではないかと評価させていただいた。

#### 委員

- ・人にやさしいバスの導入により、高齢者の利用がしやすくなっていると思うが、「いきいき 70」の利用申請者が伸びていないとなると、その効果についてどのように考えたらよいか。

#### 事務局

- ・「いきいき 70」は、バスだけでなく地域内交通にも利用できるようにするなど利便性を高めるとともに、それぞれの周知や広める努力をしている。
- ・ノンステップバスとの関係については、高齢者が利用する病院等への運行を増やす努力をバス事業者にやっていただいている。導入率の目標値 30% を達成したところだが、さらなる導入を目指しており、「いきいき 70」の周知を含めて多くの方に利用していただけるよう関連事業とも連携しながら進めていく。

#### 会長

- ・多岐にわたる事業を同時に実施しているため、評価結果が見えないのも事実である。一方では、自転車のまちづくりなどでは、市も十分力を入れており、自転車のネットワークも比較的できてきているのではないか。
- ・他市の事例と比べると宇都宮市の自転車ネットワークについては高い評価を受けているが、まだまだ十分ではない面もある。自転車は車道通行が原則であるが、車道側にまだまだ危険な場所が残っているため、引き続き整備をお願いする。

#### 委員

- ・街を歩くと放置自転車や違法駐輪が目につく。台数の把握やどういった方がしているのかの調査やそれを解決するための方策はたてられるのかなど、調査研究しても良いのではないか。

- ・これから益々公共交通を利用してもらうとなると停留所等への駐輪場の整備が望まれる。

#### 会長

- ・違法駐輪については、大学でも分析した経緯があり、やっているのは学生から一般の方まで幅広く、罪の意識が弱い。モラルを上げるための教育や適切な場所への駐輪施設を設置するのも一つの手法でもある。
- ・目の前に駐輪施設があるにもかかわらず違法駐輪をしているのも事実であり、引き続き状況を見ながらきめ細かい対策が必要である。

#### 委員

- ・自転車と自動車の混在交通になった場合、車道への自転車のはみ出しやノンブレーキ車が走るようなことのないよう、自転車の走行マナーについても啓発を図る必要がある。

#### 委員代理

- ・警察庁の自転車総合対策を受けて、自転車ルールの徹底、走行環境の整備などの3つの柱をもとに取り組んでいる。
- ・栃木県内の自転車専用通行帯は、137区間112.5kmが整備されており、全国の整備率の約47%を占めているが、ネットワークがしっかりしていない。
- ・自転車専用通行帯以外の幅員3m以下の歩道において自転車が走れるルールの見直しに関しては、栃木県の自転車事故率は16%と首都圏の自転車が多い都市と比較すると低いため、現時点での見直しは考えていない。

#### 委員

- ・自転車道の整備については全国的にも推進している。ネットワークとして使いやすい環境を整備していくのは重要であり、国としても協力していきたい。

#### 会長

- ・評価については、定量的な評価で資料ができていますが、市民目線の定性的評価を踏まえながら、今後の展開を考えられるのでないか。
- ・ご了解いただければ、議事1については、資料のとおり評価としてよろしいか。

各委員異議なし

## 議事 2 宇都宮都市交通戦略施策事業の見直し等について

### 事務局

資料 2 「宇都宮都市交通戦略の短期施策事業の設定等について」、資料 3 「宇都宮都市交通戦略施策事業の見直し（案）」、資料 4 「目標指標の見直しについて（案）」を基に説明

### 会長

- ・ご意見やご質問はあるか。

### 委員

- ・資料 3 において、変更の考え方「ニーズに応じて」は曖昧な言い方である。ソフト事業が主の事業は乗客の協力を求めれば、今からでも実施できるはずであり、先送りにする理由があるのか。
- ・複数バス停の統合において、資料 3 の変更の考え方では、「1 2 3 号線等において実施済み」とあるが、参考資料の実施結果では「検討の結果未実施」となっており、資料内の統一が取れていない。
- ・東日本大震災を振り返ると交通結節点であるトランジットセンター等におけるインフォメーションを充実させないと交通混乱を引き起こす。大きな施策の見直しはないとのことだが、入れていく必要があると思う。

### 事務局

- ・事業者とともに利用者のニーズを十分に把握しながら施策に取り組んでいく。
- ・複数バス停の統合について、国道 1 2 3 号線においては戦略策定以前に整備したため実施済みとした。標記については訂正したい。
- ・鉄道駅におけるインフォメーションの充実については利用者に情報をどう伝えていくか、行政だけでなく事業者とも連携して取り組んでいきたい。今後の改善の中にそういう趣旨も掲げ検討していく。

### 委員

- ・インフォメーションの改善は、重点施策事業として入れていかないと難しい。
- ・常磐自動車道守谷サービスエリアを災害時の防災拠点に整備したいとの話があった。首都圏バックアップ機能の話がでたときに県や市としてどのような対応を取るのか。
- ・市民の避難誘導となった時の拠点となる施設がトランジットセンターになると思うので、その辺のものをどうするかというのをまちづくりの視点からみたときに大きなファクターになるので十分考慮していく必要がある。

#### 会長

- ・交通結節点における情報提供は、交通事業者も悩まれているのではないか。震災関係におけるトランジットセンターでの市民への情報提供について現在の事業者の検討状況はいかがか。

#### 委員代理

- ・震災の対応については、報道にあったように反省すべき点はある。今後の対応として各自治体との連携強化や協議会等の体制づくりに取り掛かっている。
- ・個別の方針については、各自治体の考え方を踏まえた中で、全体の整合を取った上で動いていく。引き続き、栃木県や宇都宮市と協力体制を整えていく。

#### 会長

- ・首都直下型地震が3年以内に発生する確率が上がったという話がある。安全、安心な社会をつくるためには重要な視点である。

#### 委員

- ・大通りのトランジットモールをどのように定義しているかによるが、政策的に思い切ってやらないとできないと思うが、平成24年度から具体的にどのようなことをやっていくのか。

#### 事務局

- ・具体的な実施手法については定まっておらず、これから道路管理者や交通管理者と協議を進めた上で、歩行者や自転車の通行環境のあるべき姿というものを社会実験を通して実証していくような方向で検討を進めていきたい。
- ・平成24年度から26年度の期間中に実施するのは難しいが、まずは検討を始めていきたい。

#### 委員

- ・道路管理者の立場からすると、大通りのトランジットモール化については、公共交通を含めた全ての環境の整備が整ってから実行段階に移すものと認識している。
- ・大通りのトランジットモール化は交通政策からすると大きな課題があると思うので、十分に検討をお願いしたい。

#### 会長

- ・こういった形が一番望ましいかを議論しながらスタートするものと思う。今後の交通環境整備の進捗状況やタイミングもあるので、よく関係部署間で調整を図っていただきたい。

#### 委員

- ・バンバ地区で中心市街地を活性化するために再開発を行う計画があるが、戦略がこのままで

いいのか。中長期的な視点として修正が必要になってくるのではないか。

- ・今の時点では青写真のように受け止められているが、いずれそういう方向で見直していく必要がある。バス、タクシーがそこを利用することについて本当に必要かを含めて中心市街地のあり方を検討するのも一つの方法かと思う。
- ・参考資料にあるバス路線の新設の運行ルート（案）は、歴史上の人物に関する史跡をまわるルートと同じような地域をフォローしている。もし、そうであるならば、観光の視点を盛り込むことで計画としての厚みを増すだけでなく、注目を浴びるようになり、事業者も実験をやりやすくなると思う。

#### 事務局

- ・社会実験については、現在、複数のルートを設定しアンケート調査を実施している。来年度以降、具体的な実験につなげていきたい。
- ・都心循環バス「きぶな」についても、沿線の観光情報や史跡を車内放送で案内している。そのような施策との連携も重要であると考えていることから、そこにお住まいの方だけでなく、観光客も利用できるようなルート設定あるいは連携策を考えていきたい。

#### 委員

- ・事務局からの施策事業の見直しの説明の中で、先送りや見送りと言った言葉が出て誤解を与えているのではないか。
- ・次期短期に実施すべき事業と継続して検討を行う事業があり、その課題解決には時間を要するため最適な事業の位置付けをすることである。
- ・他の委員がご質問するのもそのような誤解があるのではないかと思い、補足させていただいた。

#### 会長

- ・できるところから実施していくのは間違いない。今年からできるのに3年待つということは有り得ない。事業計画期間については、我々もそういう認識でいるということをお願いしたい。

#### 委員

- ・この戦略は、崇高な目標に向かって進めていくという素晴らしい戦略である。中長期的な目標に向かって事業を進めていくが、実際にやっていく中で戦略に掲げた目標に近づいていくのかよく見えない部分もある。
- ・事業には、予算をかければ結果がでるものと社会が変わらないと結果がでないものが混在している。道路整備は予算をかければできていくが、公共交通の利用は市民が利用しなくなかなか成果が出てこないのではないかという気がする。

- ・できるものは進めていくという形にすると、予算を投入すれば形になるものは進むが、市民の行動や生活が変わる部分はなかなか変わらない。
- ・道路をつくと渋滞は解消する。そうすると自動車を使う人が出てくる。公共交通を使っていた人が自動車を使うようになる面もあると思う。そういう意味ではジレンマを抱えながら道路整備を進めている。
- ・整備を進める部分と公共交通を利用するところの全体を見てやっついていかないと、やりやすいところだけやっついていくのでは問題があると思う。そういう意味で公共交通や自転車の事業を進めていく時にどういったバランス、どういった速度で進めていくか、もう少し議論が必要と考える。進めやすい部分だけを進めた結果、戦略の目標と違う方向に行ってしまうのではないかと懸念をしている。
- ・道路を整備する立場として地域の目標につながっていくのか疑問を持っている。長期的な目標に向かって色々な事業がある中でやりやすいだけでなく、長期的な目標に向かっていくような連携を取っていかなければならない。ぜひとも、県や市とも連携しながら進めていきたい。

#### 会長

- ・同時に事業を実施していくと、進む事業と進まない事業等色々な差が出てくる。立ち止まって見ているということはない。
- ・どうしてもやらなければならないものは、皆で声を大きくして言わなければならない。そういった議論をするのは、こういう場でないかと思う。関係機関のそうそうたるメンバーが集まっているので相互に調整するとともに、事業者や行政それぞれの目標を調整する場でもあるので、ご意見を賜りながら進めていきたい。

#### 委員

- ・防災の観点が入っていないが、そういう整理でよろしいのか。災害が起きた時に交通の確保が重要であることがわかった。戦略の中に入れるべきか、あるいは別に設定するのか、しっかり検討していく必要がある。

#### 会長

- ・懇談会の目的はP D C Aによる事業の進行管理だが、新しい問題が発生した場合の議論についても、引き続きこの懇談会で議論していきたい。

#### 委員

- ・多岐に渡る事業について予算がからむ問題だと思うので、予算の裏づけがあるのか、優先順位はどのように設定するのかを見えるようにする必要がある。
- ・災害に関して入り込む余地がないまま進むのか、余地を残して進むのか重要な点になるので

はないか。

#### 事務局

- ・重点事業については、市民、交通事業者、行政が一緒につくっていく。行政としても、責任を持って実施できるよう体制を整えてやっていきたい。

#### 会長

- ・一通り委員の皆さまから意見をいただいた。いただいた意見は重要な視点もある。また、まちづくりの目標そのものが単一の目標ではないので、様々なところと調整しながらやっけないとならない。
- ・頻繁に情報交換しないとできないものも多く、懇談会終了後についても調整を取っていただきながら進めて欲しい。
- ・ご了解いただければ、議事2については認めていただいたということによろしいか。

各委員意義なし

#### 事務局

- ・以上で平成23年度第2回宇都宮都市交通戦略推進懇談会を閉会する。